

特別展「ノー・バウンダリーズ」

2025年2月22日（土）- 6月1日（日）

国立国際美術館

クリスチャン・ボルタンスキー
Christian BOLTANSKI

フェリックス・ゴンザレス＝トレス
Felix GONZALEZ-TORRES

廣直高
Naotaka HIRO

鎌田友介
Yusuke KAMATA

マイク・ケリー
Mike KELLEY

キム・ボム
Beom KIM

松井智恵
Chie MATSUI

三島喜美代
Kimiyo MISHIMA

ミヤギフトシ
Futoshi MIYAGI

森村泰昌
Yasumasa MORIMURA

アリン・ルンジャー
Arin RUNGJANG

カリン・ザンダー
Karin SANDER

シンディ・シャーマン
Cindy SHERMAN

田島美加
Mika TAJIMA

田中功起
Koki TANAKA

ヴォルフガング・ティルマンス
Wolfgang TILLMANS

ヤン・ヴォー
Danh VO

エヴェリン・タオチェン・ワン
Evelyn Taocheng WANG

ミン・ウォン
Ming WONG

山城知佳子
Chikako YAMASHIRO

やなぎみわ
Miwa YANAGI

No Boundaries
ノー・バウンダリーズ

2025年2月22日（土）— 6月1日（日）

開館時間：10時～17時。金・土曜は20時まで（入場は開館の30分前まで） 休館日：月曜日（ただし2月24日、6月5日は開館）、2月25日（火）、5月7日（水）
観覧料：一般1,200円（1,000円）、大学生700円（600円） *1 内は20名以上の団体料金および学割割引料金 *夜間観覧料金は【対象時間：金曜・土曜の17:00～20:00】
*高校生以下・18歳未満料金は【証明】 *心身に障りのある方ごとの料金は無料（要証明） *本会全て同時開催のコレクション-展もご覧いただけます。
主催：国立国際美術館 協賛：公益財団法人ダイナミック・エヌ現代美術振興財団 企画担当：橋本由佳（国立国際美術館 学芸課長）

お問い合わせ | 06-6447-4680 (代) | <https://www.nmao.go.jp/>
〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島4-2-35
#225 Nakanojima, Kita-ku, Osaka, 530-0005

国立国際美術館
THE NATIONAL MUSEUM OF ART, OSAKA

私たちの社会には、さまざまなバウンダリー（境界）が存在します。国境や土地の境界など物理的なものから、心理的、社会的、文化的なものまで多岐にわたり、私たちの行動、思考、価値観を形成する輪郭になります。今日の物理的・社会的な境界はグローバル化やテクノロジーの進化によって様変わりしていますが、その一方で新たな分断や排除を生み出しています。

こうした現代社会において、アーティストは作品や表現活動を通じアイデンティティ、文化、ジェンダー、物理的空間や時間など、社会において概念化された境界を軽やかに超越し、多様な価値観が交差する場を創出しています。

「ノー・バウンダリーズ」展と題した本展覧会では、国立国際美術館が所蔵する20余名の国内外で活躍する現代美術作家による作品を通して、現代社会におけるさまざまな「境界」をテーマに、私たちの日常や価値観がいかに形成されているのかを可視化するとともに、私たちが「境界」と呼ぶ既存の枠組みを解体し、新たな視座の提示を試みます。展覧会を通して、鑑賞者が既成概念を超え、多様性や共生の価値を再認識する機会となることを目指します。

出品作家 ※変更となる場合があります

クリスチャン・ボルタンスキー、フェリックス・ゴンザレス＝トレス、廣直高、鎌田友介、マイク・ケリー、キム・ボム、松井智恵、三島喜美代、ミヤギフトシ、森村泰昌、アリン・ルンジャー、カリン・ザンダー、シンディ・シャーマン、田島美加、田中功起、ヴォルフガング・ティルマンス、ヤン・ウォー、エヴェリン・タオチェン・ワン、ミン・ウォン、山城知佳子、やなぎみわ

本展の見どころ

当館は1970年に開催された日本万国博覧会に際して建設された万国博美術館の建物を活用し、1977年に開館しました。折りしも本展の会期中、2025年4月から大阪・関西万博が開催されます。国内外から最先端技術が集結し、経済発展や社会的課題の解決に取り組むこの時期に合わせて、当館では多様な価値観の作家たちが提案するさまざまな「境界」を通し、新たな社会の日常や価値観を提案します。

シンガポール出身独・ベルリン在住のミン・ウォンは、映画や演劇を通じて文化的な翻訳、引用やアイデンティティをテーマにした作品でよく知られています。ヴェネチア・ビエンナーレに出品し高い評価を獲得した映像《ライフ・オブ・イミテーション》(2009)は、発表当時に人種、映画、ジェンダーの問題が浮き彫りとなったハリウッド映画『イミテーション・オブ・ライフ』へのオマージュとして制作されました。シンガポールの主要3民族（中華系、マレー系、インド系）による俳優たちが登場人物を演じており、人種とジェンダーの問題に加えてユーモアも含みながら、現在のグローバル化した社会における文化的規範からの逸脱も見え隠れします。



ミン・ウォン《ライフ・オブ・イミテーション》2009年
2チャンネル・ビデオ・インスタレーション（HD、カラー、サウンド）
国立国際美術館蔵
© Ming Wong

PRESS RELEASE

特別展「ノー・バウンダリーズ」

2025年2月22日(土)–6月1日(日)

中国・成都出身オランダ・ロッテルダム在住のエヴェリン・タオチェン・ワンは、多岐にわたるメディアの表現により高い評価を獲得していますが、油彩画《トルコ人女性たちのブラックベリー》(2023)では、伝統的な中国の書画と西洋美術の絵画技術を柔軟に取り込むとともに、ジェンダー問題や植民地史をテーマに浮かび上がらせます。

タイ・バンコク出身在住のアリン・ルンジャーは、映像《246247596248914102516... そして誰もいなくなった》(2017)において、ヒトラーの最後の面会者がタイの民主化革命に関わったメンバーのタイ人であるという歴史的事実と、自身の父親がかつてドイツ企業で働いた経験を持つという私的側面を重ね合わせることで、時間そして地理的境界を再構築し境界の拡張を試みます。

日本人の両親のもとロサンゼルスに生まれ現在はニューヨーク在住の田島美加は、ジャンル横断的な制作姿勢が見られます。近年はエリック・サティが提唱した生活空間に溶け込む音楽にちなんだ「アールダム・ブルモン(Art d' Ameublement)」シリーズや、様々な場所、条件下で録音した音源をデジタルデータに変換し、得られた図像データを構図にジャガード織へと変容させる「ネガティブ・エントロピー(Negative Entropy)」シリーズ、有機的な形態が特徴的なガラス作品など、環境、社会、テクノロジーを核に、それぞれの境界を融解させながら表現することで深淵な考察を示しています。

このほか、ヴォルフガング・ティルマンズ《アストロ・クラスト、a》(2012) やヤン・ヴォー《無題》(2019-20) などをご紹介します。



エヴェリン・タオチェン・ワン
《トルコ人女性たちのブラックベリー》2023年
油彩、鉛筆、石膏、キャンバス
国立国際美術館蔵
© Evelyn Taocheng Wang



アリン・ルンジャー
《246247596248914102516... そして誰もいなくなった》2017年
シングルチャンネル・ビデオ(HD、カラー、サウンド)国立国際美術館蔵
© Arin Rungjang



ヴォルフガング・ティルマンズ《アストロ・クラスト、a》2012年
インクジェットプリント、クリップ
国立国際美術館蔵
© Wolfgang Tillmans



ヤン・ヴォー《無題》2019-20年
国立国際美術館蔵、「ヤン・ヴォー ーオヴ・ンヤ」
展示風景(国立国際美術館、2020年)
撮影：福永一夫
© Danh Vo



田島美加《アニマ 11》2022年
黒ガラス、ブロンズ製ジェットノズル
国立国際美術館蔵
Photo by Charles Benton
© Mika Tajima

PRESS RELEASE

特別展「ノー・バウンダリーズ」

2025年2月22日（土）- 6月1日（日）

会 期 2025年2月22日（土）- 6月1日（日）
会 場 国立国際美術館 地下3階展示室（〒530-0005 大阪市北区中之島4-2-55）
開館時間 10：00 - 17：00、金曜・土曜は20：00まで ※入場は閉館の30分前まで
休 館 日 月曜日（ただし2月24日、5月5日は開館）、2月25日（火）、5月7日（水）
主 催 国立国際美術館
協 賛 ダイキン工業現代美術振興財団

観 覧 料 一般1,200円（1,000円）大学生700円（600円）

（ ）内は20名以上の団体及び夜間割引料金（対象時間：金曜・土曜の17：00—20：00）
高校生以下・18歳未満無料（要証明）・心身に障がいのある方とその付添者1名無料（要証明）
本料金で、同時開催のコレクション展もご覧いただけます。

関連イベント

ギャラリー・トーク等開催予定。詳細は決まり次第、当館ウェブサイト等でお知らせします。

一般のお客様からのお問い合わせ先

国立国際美術館 TEL: 06-6447-4680（代表） URL <https://www.nmao.go.jp/>

交通アクセス

京阪電車中之島線「渡辺橋駅」（2番出口）から南西へ徒歩約5分、Osaka Metro 四つ橋線「肥後橋駅」（3番出口）から西へ徒歩約10分、JR「大阪駅」、阪急電車「大阪梅田駅」から南西へ徒歩約20分、JR大阪環状線「福島駅」から南へ徒歩約15分、JR東西線「新福島駅」（2番出口）、阪神電車「福島駅」（3番出口）から南へ徒歩約10分、Osaka Metro 御堂筋線「淀屋橋駅」、京阪電車「淀屋橋駅」（7番出口）から西へ徒歩約15分

大阪シティバス「大阪駅前」から、53号・75号系統で、「田蓑橋」下車、南西へ徒歩約3分（お帰りのJR大阪駅方面最寄バス停は「渡辺橋」になります）

当館には専用駐車場はありません。ご来館は電車・バス等をご利用ください。心身に障がいのある方で、車で来館される場合は、当館近隣の有料駐車場をご利用くださいますようお願いいたします。

広報画像ご使用にあたってのお願い

本展の広報を目的とした場合に限り、ご使用いただけます。「広報画像申込書」にて申請していただきますようお願いいたします。「広報画像申込書」は、国立国際美術館のホームページからダウンロードしていただけます。

国立国際美術館「プレスの方へ」 URL <https://www.nmao.go.jp/press/>

画像の使用にあたって、次の点をお守りいただきますよう、お願いいたします。

- ・画像と一緒に送付するキャプション及びクレジットを明記してください。
- ・画像のトリミングや、画像に文字を重ねての使用はできません。
- ・インターネットに掲載する場合は、無断転載禁止の旨を明記のうえ、ダウンロードできないように加工してご使用ください。
- ・会期・会場・画像キャプションなどの確認のため、グラ刷り・原稿段階で広報担当までメールまたはFAXにてお送りください。
- ・掲載（放映）終了後に、掲載出版物または録画メディアを広報担当宛にお送りください。
- ・インターネットに掲載した場合は、URLをお知らせください。
- ・画像の二次利用や転載はお断りいたします。使用後は画像データを破棄してください。

PRESS RELEASE

特別展「ノー・バウンダリーズ」

2025年2月22日（土）- 6月1日（日）

広報に関するお問い合わせ先

国立国際美術館 広報担当 太田 道子

E-mail: kouhou@nmao.go.jp TEL: 06-6447-4671(直通) FAX: 06-6447-4699

企画担当

植松 由佳（国立国際美術館 学芸課長）